

教育目標

元気な子 やさしい子 考える子

スローガン

幼児をまんやかに

幼児も保護者も教職員も明るく生き生きと笑顔あふれ、みんなかがやく！幼稚園

基本的な生活習慣の確立

- 自分のことを自分からしようとする態度を育みます。
- 幼児期にふさわしい規則正しい生活ができるようにします。
- 教師との信頼関係を築き、話を聞く態度を育みます。

- それぞれのこどもに合わせて、丁寧に寄り、自分のことを自分でする必要性に気付かせる。
- 教師がモデルを示し、挨拶や必要な言葉の大切さを知らせ、挨拶する心地よさを感じられるようにする。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さをこどもにも保護者にも繰り返し知らせ、意識できるようにする。

など

体力の向上
健康教育

- 体を動かす楽しさや心地よさを感じ、自ら体を動かして遊ぶ幼児を育みます。
- 食への関心や健康な体への意識をもてるようにします。

- 園庭環境や園内環境の工夫を行い、幼児が体を十分に動かすことができる環境の工夫を行う。
- 週1回は、学級全体の活動で体を動かす遊びを取り入れる保育の組み立てを行う。
- 講師の招へいや栽培物の収穫・会食等を通して幼児に食の大切さを感じられるようにする。
- 様々な機会を捉え、1日3回の食事を、しっかり食べることの大切さを伝え、意識をもたせる。

など

豊かな心の育成

- 気付き・感じ・考えたことを探究・表現する楽しさを味わえるようにします。
- 人との関わりを通して、自分と相手のよさに気付き、認め合い、協力し合い、互いを大切にする幼児を育みます。
- 様々な直接体験から、自分で考え判断し、あきらめずに自分の納得するまで挑戦しようとする前向きな気持ちを持ち、自分の言動を振り返ることができる幼児を育みます。

- 没頭して遊び、幼児の心を揺さぶる直接体験から遊びの中の学びを確かなものにできるように、豊かな教材素材の準備・自然環境の整備・活動の工夫・見直し・改善を行う。
- モデルとなり、心地よい人との関わり方を学べるようにする。
- 友達との関わりの中で、一緒に遊べる楽しさ、互いのよさ、葛藤やトラブルを乗り越えて、また遊ぶことができた嬉しさを感じられるようにする。
- 日々の園での集団生活や、公共施設の利用を通して、楽しく過ごすための約束や必要なルールの意味に気付き、みんなにとってどのようにしたらよいか教師や友達とともに考え、行動できるようにする。

など

教師の指導力向上

- 幼児理解を深め、環境構成の工夫とよりよい援助のあり方を常に探り、評価・反省から明日につながる保育を実践します。
- 幼児の権利を守り、幼児をまんやかに、互いの保育について常日頃から語り合い、相談し合い、評価し合い、確実に幼児を育てられる教師集団となります。

- 幼児の権利を守り、幼児をまんやかに一人一人をありのまま寄り添い受け止め、言動を肯定的に捉え、信頼関係を築き安心して幼稚園に通えるようにする。
- 保育の反省・評価を次の環境構成や援助に生かし、明日につながる保育を実践する。
- 「考える子を育む」を継続して研究テーマにし、幼児の遊びの中の探究に視点を当て、事例検討や研究保育を通して環境の工夫や教師の援助を探り、保育に生かす。
- 個々の幼児の特性や様子を園の教職員がチームとして情報共有し、寄り添い受け止め、温かい雰囲気の中で学級経営・園経営を行う。

など

開かれた幼稚園づくり

- 子育て支援活動の工夫・充実を図ります。
- 保幼小中連携教育の充実や近隣就学前施設とともに教育の質向上を目指し、学びの連続性を意識した教育内容や交流活動の工夫・研修を行います。

- 保護者との関わりを深め、一人一人の幼児のよさや成長を共有し、随時悩みや相談を受け止める。
- かんがるひろばの充実や施設開放の実施を行い、子育ての相談に応じる。
- にこにこたいむで子育て支援を行う。
- 子育ての支援として預かり保育利用を勧めると同時に、幼児期に必要な保護者の家庭での関わり方について理解を深める。
- 園だより、学級だより、ホームページ・Instagram・保育参観参加、保護者会、幼児や家庭の実態に合わせ幼稚園教育を発信する。
- 父母と教師の会の活動、サポーター活動等を通して幼稚園教育の理解を深める。
- 近隣の保育園・小学校・中学校との互いの教育内容の理解を深め、交流活動や研修を実施する。就学前教育施設との連携を深め、学びの機会をもち、幼児教育の質の向上を目指す。

など

